

職人技と科学技術の融合に挑戦する 株式会社ノミック

大阪府立産業開発研究所 主任研究員 **天野敏昭**

企業名：株式会社ノミック
事業内容：建築工事業
従業者数：35人（平成19年12月末現在）
住所：大阪市北区天神橋7-1-10
URL：http://nomic.co.jp/

はじめに

デザイナーの宮川憲明氏は、1971年に店舗ディスプレイ設計を手掛ける「ノミキュービックアンドエクスプレッション」を創業しました。その後、1977年に株式会社ノミック（以下、「同社」）を設立し、商業施設、文化施設、イベント会場など大規模施設向けの内外装材の開発と設計を行っています。同社のマテリアル（新たな空間創造に寄与する壁材などの素材全般のこと）は、六本木ヒルズ53階にある世界最高階の美術館としても有名な森美術館に採用されるなど、独創的なものです。

商品開発のコンセプトは、現代造形作家でもある宮川社長のものづくりに対するこだわりが反映されています。和紙、鉄、銅、黄銅、鍍金などの国内外の伝統的な素材を効果的に取り入れ、金属と薬品の化学反応などの新技術を組み合わせることによって、独特の風合いや色彩を持つ無二のデザインとマテリアルを生み出すことを基本にしており、自然さ、偶発性、時間の経過が醸し出す素材の新たな表情が重視されます。今回は、そうしたコンセプトに基づく新マテリアルの開発の取組を紹介いたします。

1. 経営革新の取組に至るまで

建築総合プロデュース業を目指している同社は、和み、ゆとり、新感覚の表現を新たな空間創造に活かすため、内外装材の販売にとどまらず、店舗やイベント会場の施工に積極的に関与し、コンペでは大型案件も受注しています。日本ディスプレイデザイン年賞、21世紀計画御堂筋ウインドーコンテンツ、ジャパンショップ、日本POP広告展、越谷市建築景観賞、大阪府産業振興会、メセナ大

賞2000などでの受賞も数多く、同社が開発した独自のデザインやマテリアルは高い評価を受けています。

しかし、同社の課題は、企画や開発を主に社長が行い、社員の創造性を十分に引き出せていないことでした。このため、2年毎に「仕事の心構え」を作成し、毎週月曜日の朝礼で唱和しています。「仕事の心構え」は、ものづくりに対するこだわりを社員に持ってもらうよう、社員自らが策定します。デザイン会社でこうした取組をするところは少ないようですが、失敗を恐れずに新たな開発に取り組み、仕事を通じて自らを鍛えることによって、失敗を成功に結びつけられるような強靱な社風の醸成に努めています。

第十九年度
仕事の心構え
何事も失敗を恐れず、常に勇気ある前向きな考えや、行動が新しい未来を創る。
よく聴く！よく観る！
そしてよく考える！
（知恵と工夫とアイデアは、考え抜いて初めて実を結ぶ）
一、整理整頓は、もつとも大切な業務である！
（仕事の効率化スピードアップ、経費の削減につながる）
二、常日頃、あなたの言動や行動は、必ず誰かが見ている。
（良きにつけ悪しきにつけ、周りの人に影響を与えている）
社員、同

ものづくりに対するこだわりは、従来のやり方を踏襲するだけではなく、場合によっては、社員や職人の仕事の仕方を覆すぐらいの行動が求められます。経営革新計画の取組は、様々な経験と実験を積み重ね、日本古来の伝統技術をより簡便な方法で再現し、唯一無二のマテリアルを現代に甦らせる取組です。

2. 経営革新計画の内容

同社は、社会保険労務士の勧めで経営革新計画を作成しましたが、それまで経営計画を作成したことはありませんでした。計画のテーマは、「新マテリアルの企画・開発による新インテリア感覚

の提供（建築総合プロデュース事業への取り組み）」で、新たな内外装用パネルの開発に取り組んでいます。開発したのは、①鉄染匠（てつせんしょう：薬品処理した鉄板と高度な染色技法を組み合わせ、一枚一枚色調や柄が異なる壁材）、②鍍金匠（さびしょう：自然酸化による鍍金の風合いを塗装技術で再現し、内外装用として耐久性を持たせたもの。鉄鍍金、銅鍍金、金泥、銀泥の4種ある）、③金匠窯変板（きんしょうようへんぱん：銅素材の自然腐食・鍍金を人為的に発色させたもので、銅板や真鍮板での緑青の発色と固着、イボタ蠟による模様や色合いを再現したもの。経年によって緑青本来の性質が形成される特徴を持つ）、④紙匠（かみしょう：主に徳島産の楮、三桮、雁皮の手漉き和紙を使用し、表面の毛羽立ちを押さえ撥水性を持たせたもので、防煙、難燃加工もできる）の4つで、いずれも職人技を生かした独特の風合いと色調を持ち、新空間の創出に寄与するマテリアルです。

将来は①～④のマテリアルとその技術を活かしたガーデンライトの開発にも取り組む計画です。これらのマテリアルは、いずれも一朝一夕に開発が成されたわけではなく、たとえば、金匠窯変板の開発には1年を要しました。このマテリアルを開発した契機は、銅鍍物産地の富山県高岡市において、銅の持つ性質から出る色や銅器に着色する技術に着目したことでした。そして、温度や薬品の処理如何によって色が変化する技術を活用することを思い立ったのです。しかし、伝統技術に誇りを持つ職人は、新しい生産方法をすぐに受け入れることはできません。ましてや、伝統工芸品を生産している職人にとって、内外装材のように一定の数量が求められ、伝統工芸品並みの価格で流通しないような製品を生産するには、それなりに妥協が求められました。新しいことに踏み出せない職人を説得するには、社長自らが現地の生産現場に飛び込んでいって、自らの計画についてとことん議論を重ねることが不可欠でした。

3. 経営革新計画の進捗状況

時間はかかりましたが、社長の美に対する飽くなき探究心が職人に受け入れられた結果、納得できるマテリアルが完成しました。これまでに、鍍金匠は虎屋茶寮京都店、美々卯心齋橋店、オルゴールの小さな博物館（東京・文京区）に、鉄染匠は六本木ヒルズ展望台の東京シティービューに、紙匠はヒロコ・コシノ・オムなどで採用されています。

最近の経営状況は、既存事業（店舗やイベント

会場の内外装の設計）についてみると、大阪ではコスト削減の傾向が強く厳しい状況が続いていますが、東京での受注は比較的順調に推移しています。また、新規事業は、高価な材料であるものの、美的な価値が高く評価され、徐々に認知されています。業績は順調で、売上高、営業利益ともに前年度実績を大きく上回っています。

同社の経営革新計画は5年計画で現在3年目に入ったところですが、4年目以降の実施項目にも既に着手しており、積極的な取組が功を奏しています。マテリアルの企画開発と商品化が順調に推移したことはもちろんですが、販路開拓に向けてショールームを開設し、現物を確認しながら商談できるようになった効果が大きく、新規取引先の開拓につながっています。また、社内の役割分担や責任等が明確になるなどの効果もありました。

4. 今後の方向性

同社は現在、地場の高度な鑄造技術と自社のデザイン企画力を組み合わせて、環境にやさしい太陽光発電のガーデンライトの開発に取り組んでいます。このガーデンライトは、同社が3年間構想をあたためていたもので、太陽光発電を利用し、LEDと風を感知するセンサーの働きで炎がゆらめく仕組みを持ち、庭園や旅館など向けの商品として、国内だけでなく海外市場での販売も狙っています。そのため、今後、金属加工と金属に着色したり塗装する技術を更に高める意向で、研究機関と連携して開発を進めることも考えています。

おわりに

同社の計画は順調に推移していますが、その理由は、①美を追求する社長の妥協なき眼・心・行動、②徹底した現場主義、③社員の自由な発想と企画開発力を生み出す意識醸成の取組、④計画を前倒しで進めていく積極的な経営方針、などであると考えられます。

最後になりましたが、本稿の執筆にあたりいろいろとご教示いただきました宮川憲明代表取締役に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

開放的で機能的なショールーム

